

## 触媒工業協会、触媒資源化協会共催講演会を開催

触媒工業協会と触媒資源化協会の共催による講演会を2017年12月4日(月)、学士会館において開催した。講師は市石会長のご紹介で(株)SSC 取締役の金沢洋平殿にお願いし「エレクトロニクス市場動向と日本の製造業」というテーマでお話しいただいた。両協会合わせて約50人の参加があった。



ご講演に先立ち、記念すべき第1回目の共催講演会開催にあたり、触媒資源化協会の和気会長より以下のようにご挨拶があった。

「皆さんこんにちは。

只今ご紹介がありました通り、触媒資源化協会の会長を仰せつかっております、JX 金属の和気と申します。本日は触媒工業協会の市石会長に最初のご挨拶をと思っていたのですが、所要でご不在という事でありましたので、私が勤めさせていただきたいと思っております。

まずもって、本日は師走のお忙しい中、このように多くの皆様が両協会催の講演会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、日ごろから両協会の運営に関しまして多大なご協力を戴いております事、改めましてここで感謝を申し上げたいと思っております。

ここで、私ども触媒資源化協会と触媒工業協会、この関係について少しかだけお話をさせていただきます。もともとは『触媒工業協会』が最初にございました。昭和50年に『廃触媒研究会』というものが派生しました。その後、同年6月に『使用済み触媒資源化懇談会』というものに形を変え、16社を以て設立されております。それが発展致しまして昭和52年には『使用済み触媒資源化協会』と名前が変わりました。そして最近ではありますが平成20年に今の『触媒資源化協会』という名前に変わってございます。ということで触媒工業協会は触媒資源化協会にとりましては親も同然という事でありまして、そういった関係から両協会の運営に携わる人たちは年に1回、細々と懇親会などをいたしました。が、両協会では何かできないかなどという事を数年来話し合っていました。世の中の常と致しまして、こういう話が出たときには、盛り上がりやろう、やろうという事になるのですが、実際やるとなるとなかなかできないというものでございます。しかしながら、

ようやく今日、この開催に至った次第でございます。そういった意味で本日、そこにいらっしゃる岩田事務局長、更には触媒資源化協会の小林専務理事、御二方には多大なご尽力をいただいたと思っております。この場を借りて感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございます。

本日はエレクトロニクス業界のお話を講演戴けるということで、両協会にとりまして触媒の使い方、あるいは使用済みの触媒のリサイクルのあり方、こういったものが勉強できるのではないかと考えております。大変貴重な機会ではないかと思っております。どうか熱心にご聴講いただきたいと思います。またこの後、懇親会もございますので、そこでは人と人との交流を是非図って戴きたいと思っております。両協会に属している方もたくさんいらっしゃると思いますが、一人二役して戴いて大いに盛り上げていただきたいと思います。

以上、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。」



触媒資源化協会  
和気会長ご挨拶



ご講演の金沢洋平殿

ご講演終了後 30 分程度の質疑応答の時間があったが、活発な質疑が 30 分間続いた。講演会終了後懇親会に移った。乾杯に際して触媒資源化協会の林副会長は以下のように述べられた。

「只今ご紹介いただきました、触媒資源化協会の副会長を務めさせていただいております、田中貴金属工業の林と申します。僭越ではございますがご指名ですので、乾杯の挨拶をさせていただきます。まず初めに、本日お忙しい中、初めての触媒工業協会と触媒資源化協会の共催の講演会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また金澤先生におきましては貴重なご講演を戴きまして本当に有難うございます。金澤先生の講演は、私は年に 1 度拝聴しておりまして、毎回楽しみにしております。今回も非常に勉強になりました。製造メーカーでもある我々としましては、**QCD** で先生の講演を例えますと、**Q** は **Quality** ですので、地道な調査という話もありましたが、本当に質の高い情報と、プラスちょっと裏情報があるという事ですね。それから **D (Delivery)** につきましてはタイムリーな情報であるという事が言えます。あと上から目線で申し訳ございませんが、**C** の **Cost** につきましては低コストな講演料、失礼しました、付加価値の高い情報という事で、本当に有難うございます。また今回エレクトロニクスという事がキーワードでありまして、我々触媒に携わるメンバーとしましては、ちょっと関連性が、という形もありましたが、カーエレクトロニクスという言葉がありますように、車をキーにすると、我々は触媒を作っておりまして、エネルギーからすると石油精製の触媒を作っており、またあるいは石化製品を作るための触媒を製造しておりまして、それが車のエネルギーになったり、車の部品になったりしております。またその車で発生する排気ガスを浄化するのも触媒ということでございますし、また廃車になりましたら、それを資源化するという事も我々の業務になるのかなと思ひまして、色々な関連性があると私は思っております。本当に有難うございました。また先生のお言葉でもありましたが **Victory loves preparation** という事で先生のいろいろな予測が、結構当たりますので、それを心に刻みまして今回参考にさせていただきたいと思っております。

最後になりますけれども触媒工業協会は 1965 年に設立されまして、その 10 年後に触媒資源化協会が設立され、現在、工業協会は 50 社、資源化協会は 43 社の会員の方がいらっしゃいます。今回もっと人が入っても良いのかなと思ひましたので、これからは広報していきたいと思っております。

触媒工業協会は触媒を作るという事ですので、動脈産業ということが言えます。触媒資源化協会はリサイクルという意味では静脈産業という形になります。経済産業省が推進しております動脈産業と静脈産業の連携による循環型社会の実現という事では、我々はかなり重責を担っておりますし、また、役割を果たしていると思っております。これを今後強固にしていくためには皆様のご参加とご協力が、必要だと思ひますので、今後ともよろしくお願いいたします。

それでは触媒工業協会並びに触媒資源化協会のますますの発展と、本日ご列席の会社様の

発展、並びに本日ご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして乾杯したいと思います。」



触媒資源化協会  
林副会長乾杯のご挨拶

懇親会は和やかな雰囲気で行われ、最後に触媒工業協会の小川技術委員長の中締めで締めくくった。